

平成28年度 第2回 湖西市総合教育会議議事録

1 日 時 平成28年8月22日(月) 午前10時00分～午前11時42分

2 場 所 湖西市役所 市長公室

3 出席者

(1) 構成員

市 長 三上 元
教育委員会
教 育 長 山下 宗茂
委 員 袴田 雄司 飯田 宣子 河合 禎隆

(2) 意見聴取のための関係者として出席した者

教 育 次 長 (落合 進) 教 育 総 務 課 長 (岡本 聡)
学 校 教 育 課 長 (西川 睦弘) 幼 児 教 育 課 長 (杉浦よしみ)
幼 児 教 育 課 長 代 理 (安形 知哉) 教 育 総 務 課 係 長 (石田 千博)
教 育 総 務 課 主 査 (藤田 貴伸)

(3) 会議の事務のために出席した者

教 育 次 長 (落合 進) ※再掲
教 育 総 務 課 長 (岡本 聡) ※再掲
教 育 総 務 課 長 代 理 (三浦 祐治)

4 協議又は調整に係る事項

(1) 岡崎幼稚園の耐震補強及び改修等について

(2) 保育園の入所待ち対策について

(3) その他

- ・教育施設の計画的な改修について
- ・小・中学校のトイレ改修について

5 協議又は調整に係る事項に関する出席者の発言

別紙のとおり

午前10時00分開会

(教育次長) ただいまから、平成28年度第2回湖西市総合教育会議を開会する。
初めに、市長から挨拶をいただきたい。

(三上市長 挨拶)

(教育次長) 次第に従い会議を進めていく。

協議事項(1)岡崎幼稚園の耐震補強及び改修等について、幼児教育課長から説明する。

(幼児教育課長) 岡崎幼稚園の耐震補強及び改修等の事業の背景には、岡崎幼稚園の耐震補強工事の必要性と入所待ち児童の増加がある。

岡崎幼稚園は、昭和56年建築で築46年を迎える。老朽化が進行し、設備の改修等高額な修繕が年々増えている。国の耐震基準は満たしているが、県の耐震基準は下回っており、園児の安全性確保の観点から早急な対応が必要となっている。

湖西市内の幼稚園児数は減少しているが、世帯の収入状況や女性の社会進出の拡大などにより保育ニーズは増加している。新所原、岡崎地区は、保護者の勤務地に近いなどの理由で今までも保育需要が高い地域であったが、宅地造成や区画整理が進み、保育需要がより増加すると予想される。資料からも岡崎小学校区の0～2歳児の人数が増えていることが分かる。入所待ち児童の解消策としては、既存施設のこども園化、小規模保育事業等の新設、既存施設の変更・拡充などが考えられる。

岡崎幼稚園の耐震補強工事を行うためには仮園舎が必要になり、プレハブの仮園舎は高額な費用が必要となる。今回提案させていただく案は、耐震補強工事中の仮園舎を工事完了後のこども園の0～2歳児の保育室として活用するよう計画したものである。メリットとしては、入所待ち児童数の削減、幼稚園舎の有効活用のためのこども園化、保護者の利便性の向上、建築コストの大幅な削減が挙げられる。

園舎耐震補強工事の工期は約8か月間で、耐震壁の補強や軽量化などに加え、防水工事、壁面塗装などを行う。工事費及び設計・監理費等で約1億7,700万円である。仮設のプレハブ園舎は、他市の例では2階建ての6か月間で約1億6,000万掛かったということである。

こども園化に伴う増築工事は、現在の岡崎幼稚園の敷地内の東側に園舎を増築する計画である。耐震補強工事の前にこども園化に伴う増築工事を行い、園舎の耐震補強工事を行う間、増築した園舎で幼稚園の保育を行い、耐震補強工事終了後、増築園舎を0～2歳児の保育室として使用する。増築工事の工期は約9か月間で、木造2階建て、0～2歳児の保育室6室とことばの教室、多目的室を設ける。また、こども園化に向けて、現在の園舎の給食室の改修及び設備設置が必要となる。工事費、設計・監理費、給食設備の費用などで約2億9,000万円である。

金額は全て現時点での概算で、この他に備品等が別途必要になってくる。園舎耐震補強工事とこども園化に伴う増築工事をそれぞれ単独で行った場合は6億2,700万円掛かるところ、今回の案では同時に施工するので仮設のプレハブ園舎の建築費約1億6,000万円が節減でき、約4億6,700万円できると見込んでいる。

スケジュールとしては、こども園開園4年前にこども子育て会議や議会への報告、市の総合計画実施計画への計上、3年前には地域や保護者への説明、基本設計、実施設計、2年前には増築工事と耐震補強工事着手、1年前には耐震補強工事と工事終了

後の備品購入・設置などの準備、条例制定、こども園の認定申請、募集開始の手続などが必要となる。

以上。

(教育次長) 質問等があればお願いします。

(三上市長) 教育委員の方々は、これについて事前に承知しているのか。

(山下教育長) 教育委員会7月定例会で、概略について説明している。

岡崎小学校区の0歳児160人という数字はかなり多いが、説明にもあったように宅地造成等が予定されているので、更に増える可能性はある。

(三上市長) 新所原駅の橋上化が11月末に完成する。橋上駅ができれば人口が増え、岡崎小学校区の来年、再来年の子どもたちの数も増えていくだろうと私も思っている。

幼稚園のこども園化の意向は私も持っており、岡崎幼稚園の耐震補強は早急に必要で、これから人口が増加するだろうと思われるエリアであるので、実施する方向についてはいいと考えている。いつやるかについては、現在公共施設の総点検をしているので、調整が必要だろう。教育委員会としては早く実施したいという考えか。

(山下教育長) 市長が子育て支援に重点を置いて市政を行ってきたことから考えると、優先順位の非常に高い事業ではないかと判断している。市長が決断すれば早い着工となるのではないかと期待しているが、いかがか。

(三上市長) 優先順位が高いと思っているが、具体的な時期についての指示はまだしていない。

今回の案はいろいろ検討した結果だと思うが、改築案はなかったのか。

(幼児教育課長) 近隣の土地を購入すれば可能だが、現在いる200名弱の子どもたちの行き場所がない。プレハブを建てるとなると、高い経費が掛かる。

(山下教育長) プレハブ等を建てて敷地内で子どもたちが生活することになると、子どもたちの保育環境の悪化も懸念される。どこかに子どもたちを収容できる施設が別途あって建て替えるということであれば、それが一番いい方法だと思うが、財政上の問題もあって現実的ではない。それならば、こういう形で自園に居ながら耐震補強等が可能な事業案が最適ではないかと考えた。

(三上市長) 増築園舎はプレハブではなく、保育園舎として使えるものを造り、幼稚園児がまずそこに入るといふことか。

(幼児教育課長) 全員は入れないので、半分ずつ交替で入って耐震補強工事を行う形になる。

(三上市長) 増築園舎はなぜ木造なのか。

(幼児教育課長) 子どもたちの安全と工期の短さを考慮した。

(教育総務課主査) 木造の環境の良さ以外に、鉄筋コンクリート造よりも耐用年数が短く、耐震補強を行う園舎の数十年後の改修・建て替えの時期に合わせての改修も可能となると考えた。工事費も木造の方が安い。

(三上市長) 耐震補強工事をした場合、その後何年程度もつのか。

(教育総務課主査) 30年程度を見込んでいます。

(飯田委員) 増築工事の中に給食設備の費用も入っているが、これによりここで給食を作って提供できるようになるのか。

(幼児教育課長) こども園になると0～2歳児の給食は自園で最終調理をしなければならぬので、給食室の改造等が必要となる。

(飯田委員) 給食員も必要となるのか。

(幼児教育課長) 委託とするか直営とするかは今後検討するが、設備自体は造らなければならぬ。

(袴田委員) 岡崎幼稚園には今は給食室はないのか。

(幼児教育課長) 給食室自体はあり、そこでは業者から運ばれるものを受け取り、クラスごとに分ける作業をしているが、設備がない。食器洗浄機、食器保管庫、冷凍庫等が全て必要になってくる。

(袴田委員) 今ある場所をそのまま使うことはできないのか。

(幼児教育課長) 調理を行うための広さとしては大丈夫だが、給食員のトイレや更衣室が別途必要になるので増築し、設備を整備することになる。

(袴田委員) こども園化に伴う増築工事を行うことによって、現在の入所待ちが全て解消するのか。

(幼児教育課長) 多分、全ては受け入れられないが、かなり解消されるのではないかなと思う。

(河合委員) 東側に増築という計画だが、運動会等の行事がこの増築によって制限されることはないか。

(幼児教育課長) 増築を計画している場所は今築山等がある場所なので、園庭の広さについては、何とか確保できる。今ある遊具や畑等の配置を考え直して、少しでも広く活用できるようにするつもりである。

(河合委員) 岡崎幼稚園前の道路は県道か。

(教育総務課長) 県道である。

(河合委員) 歩道の整備の要望を上げているか。

(山下教育長) 一応歩道は設置されているが、交差点付近はきちんと整備されていない状況である。

(河合委員) 駐車場が園舎から1軒人家を挟んだ所にある。こども園化すると登園する人数が増えるが、安全管理が徹底できるのか。

(幼児教育課長) 園のすぐ南側にも小さい駐車場があり、そこから直接園庭へ入れるようになっている。保育部分の方たちにはそこを利用してもらおうと考えている。

(飯田委員) 説明会を行ったときに、保護者から歩道整備の声が出るかもしれない。

(山下教育長) 歩道の整備についても、もっと働き掛けていきたい。教育委員会としては、岡崎幼稚園の耐震補強工事を早急に行わなければいけない時期に来ているので、この計画で早期実施をしたいと考えている。できれば本年度から準備を始め、平成32年にこども園を開園したい。

(三上市長) では、他の部門との調整が残されてはいるが、今日の総合教育会議としてはこども園開園を平成32年4月とする方向で進めたい意思を固めたということにしたいと思う。

(教育次長) 続いて協議事項(2)保育園の入所待ち対策について、幼児教育課長から説明する。

(幼児教育課長) 幼稚園のこども園化には3～5年は掛かるため、現在入所待ちをしている方の対応にはならない。そこで、今年度国が打ち出した待機児童解消に向けて緊急的に対応する施策のうち緊急的な一時預かり事業を活用し、保育園等への入園が決まるまでの間、給食を自園で提供し、余裕教室のある新居幼稚園でこの事業を行いたいと考えた。県に確認したところ、この事業を入所待ち児童対策として活用してもよいとのことであった。

緊急的な一時預かり事業を実施する場所は、新居幼稚園南園舎1階の保育室、本年度は幼稚園の一時預かり事業の保育室として使用している部屋である。会議室の隣の部屋で、ここだけ普通の保育室と隔離されているのでやりやすい。対象は、0～3歳の入所待ち児童のうち、育休の延長ができない、産前産後等の理由で保育園に入れな

い緊急的利用者である。定員は15名で、年齢別の内訳も想定しているが、面積基準を超えないよう流動的に対応するつもりである。開園日は基本的に保育園と同様で、4月1日から3月31日までのうち土日、祝日、年末年始、園の閉庁日を除いた日とする。時間は午前7時から午後6時までで、午後6時以後の延長保育については現在検討中である。期間は保育園等への入園が決まるまでの間で、定期利用が可能である。保育園では現在、月10日程度までの一時預かり事業を行っているが、新居幼稚園で行う緊急的な一時預かり事業では日数制限はない。保育園の一時預かり事業の保育料は食費込みで3歳以上児が1日1,000円、3歳未満児が1日1,800円であるが、緊急的な一時預かり事業の保育料についてもこれと同様にするつもりである。食費分の徴収については、現在検討中である。

職員は4名程度を考えている。現在いる幼稚園型の一時預かり事業の担当者とは別に雇用する必要がある。また、給食、おやつを自園調理することになるので、給食員の1名増員を検討している。必要となる経費は、保育室の床、手洗い設備、エアコン等の改修費と備品の購入費である。

この案を承認いただければ、早ければ今年度中に新居幼稚園の保護者への説明、議会への対応、入所待ちとなった人への説明等を行い、来年度4月から開始したいと思っている。

この事業は、利用者が不確定になりやすいことや施設改修費が必要になるデメリットはあるが、児童にとって安定した保育が受けられること、育児休業を延長できない保護者にとって利用しやすくなること、将来的なこども園に向けての段階的措置として位置付けられ、体制準備期間となり得ることがメリットとして挙げられる。

以上

(教育次長) 質問等があればお願いします。

(三上市長) この件についても、教育委員の皆さんは情報を共有しているのか。

(教育次長) 詳細については今日が初めてである。

(山下教育長) 最初の協議事項の岡崎幼稚園の耐震補強工事及び改修、こども園化が早くても4年先で、現在入所待ちをされている児童の保護者にとっての救済措置にならないため、その期間、新居幼稚園で緊急的な一時預かり事業を行うことによって入所待ち児童の削減に努めたいという提案を、教育委員の皆さんにはさせていただいた。ここは正式に保育園への入園が決まるまでの間の緊急的な避難的な場所になる。給食施設のある幼稚園でないとすぐに実施に移せず、余裕教室があって給食施設があるとなると、新居幼稚園しかないということである。ここで了解を頂ければ、実施に移したいと考えている。

(三上市長) 設備から考えると新居幼稚園がやりやすいというのは分かるが、0～1歳児が減っているというデータのあるエリアで行うことについては矛盾がある。困っている方は、他の地域に住んでいても新居幼稚園に預けるだろうということか。

(幼児教育課長) 現在就労しているが保育園に入園させられない方たちは、複数の保育園の一時預かり事業を利用して保育園入園を待っている。育休を延長して保育園入園を待つという方ならいいが、それができない方のためにこの事業を行えば、新居幼稚園へ子どもを置いて働きに行く方もいると考えた。

(三上市長) 0歳児は何か月から預かるのか。

(幼児教育課長) 保育園の入所基準と同じで、産休明けから預けたいという方もいる。

(三上市長) 経費は概ね幾らか。

(幼児教育課長) 200～300万円程度だと思う。

(三上市長) 人件費も掛かるのか。

(幼児教育課長) そのとおりである。

(山下教育長) 保育士を少し増やしたい。

(三上市長) 給食員はどうか。

(山下教育長) 検討する必要がある。増やしても非常勤職員を1人と考えている。

(飯田委員) 通常の保育料の場合には、低所得の方は安くなる。この緊急的な一時預かり事業を利用して入園を待っている期間が長期になることも想定されるが、そうした場合、通常に預けるよりも保育料が高くなってしまわないか。

(幼児教育課長) 毎日利用して1か月として計算すると、通常の保育の標準的な所得階層の方の保育料と同程度になるが、所得の少ない方にとっては高くなる。あくまでも入園するまでの間ということ、これから働きたいという方については普通の一時預かり事業を利用していただくことになる。そのため、通常の保育園の一時預かり事業の保育料と同程度の料金を想定しており、軽減措置についてはまだ検討していない。

(袴田委員) 来年4月にスタートしたいという話であったが、改修は間に合うのか。

(幼児教育課長) 12月議会で補正予算が可決された後すぐに改修準備に取り掛かれば、3月までには終わると思う。

(三上市長) 今回の12月議会の日程は通常より遅いが、大きな改修ではないからそれでも間に合うということか。

(幼児教育課長) 改修の内容は、床の改修、幼稚園用の手洗い設備を低くする改修、目の前の園庭との間にフェンスを設ける改修、トイレでもく浴、シャワーが使えるようにする改修である。想定している保育室では通常の保育を行っておらず、現在行っている一時預かり事業の場所を移せば、すぐにできると思う。

(袴田委員) 人員の補強も大丈夫か。

(幼児教育課長) 来年度は幼稚園のクラス減もあり、それを含めて来年度の採用と異動の計画を立てていきたい。

(河合委員) お盆が休みと明記されていないが、普通の保育園は休みではなかったか。

(幼児教育課長) 保育園は、お盆もゴールデンウィークも開いている。ただ、働く方のための施設であり、家庭保育ができる方はお休みをするので、人数が減る。幼稚園はここ数年お盆を閉園日としているので、緊急的な一時保育事業についても幼稚園の閉園日は閉園することを予定している。対象者が育休の延長ができない方であり、育休制度がある事業所は休みの体制もしっかりしているので、閉園日があっても大丈夫ではないかと考えている。

(三上市長) 場所の選択の余地がなく、需要もあり、特に問題がないのであれば、緊急の対策として12月議会に補正予算を出してもいいと思うが、どうか。

(山下教育長) 入所待ちの方の増減が不確定で、この事業が利用されるかどうかも分からないが、とにかく市として入所待ち児童をできるだけ軽減するための受け皿を作らせていただきたい。開設してみたらニーズがなかったということになってもそれはそれで結構な話であり、まずは対策を講じることを了解いただきたい。

(三上市長) 私としては、人件費と200~300万円の改修費であるならば、緊急的な対策として行いたいと思う。その方向をこの場で確認したということで、(2)の協議を終了する。

(教育次長) その他皆さんから意見等があればお願いします。

(袴田委員) 小・中学校、幼稚園など教育施設の老朽化が大分進んでいる。何とか計画的に改修が進められないか。

(三上市長) 今まさに市の公共施設の長寿命化計画を検討しているので、担当部署に情報をきちんと上げていただき、協議をしていただきたい。

(山下教育長) それに関して、市長は前々から幼稚園、保育園等の民営化の話をされている。私自身も、基本的には財政上の問題もあって可能性としてはあると思っている。ただ、民営化を前提として老朽化しつつある施設の改修等が事業計画に入らないという状況が出てきているので、それは切り離して考えていただきたい。耐震補強や建て替えが必要な施設については、耐用年数を考慮してこの時期に行うという事業計画がまずあって、その上で民営化、移転、統廃合等の話が出てくれば事業計画を見直すというのが順序ではないか。補強も何もしないまま、いつまでも民営化されないという状況では、市内の子どもたちの行く場所がなくなることが懸念される。民営化は分かるが、それはともかくとしてまずは事業計画の中でいつこの幼稚園の耐震補強をするという計画をしていく必要があるのではないかと考えている。

昨年度、教育施設適正化検討委員会から提言をいただいた。この提言を受けて教育委員会事務局で原案を作成し、それを教育委員会定例会に諮って了解を得た上で、この総合教育会議等で市長と協議させていただき、そこで話がまとまれば、それを事業計画に反映させていただきたいと考えている。

(三上市長) 幼稚園、保育園等の民営化は財政の事情からある程度やむを得ない状況であり、それがゆえに補修が遅れてはいけないというのもそのとおりだと思う。民営化するから何もしないということは、基本的には考えていない。だから、補修しなければならないものの補修はする。ただ、建て替える場合にはそれが民営化のチャンスだと考えているだけであり、補修することに抵抗しているわけではない。

(飯田委員) 施設の話に関連して、小・中学校の卒業式、入学式に行ったときになるべくトイレを借りるようにしているが、和式で、薄暗く、衛生的にも大丈夫なのだろうかと思われるトイレ施設が結構見受けられる。今のお子さんのほとんどは、洋式で育っている。建て替えや耐震補強の実施が難しいとなるとトイレの整備も遅れてしまうのではないかと。教室へのエアコン設置も全国的には進んできているとも聞いているが、エアコンはともかくトイレの整備はどうにかならないか。

(山下教育長) トイレについては、耐震補強等と併せて改修を行い、床面がウェットからドライに変わり、便器も新しくなっている学校もあるが、いまだに和式も多く、ウェットの状態でにおいが気になるという学校もある。順次計画を立てて、便器の洋式化、床面のドライ化をしていく必要があるとは思いますが、そうするとトイレを広げるなどかなり大きな工事になる可能性がある。

(三上市長) エアコンの設置については、市民の間にまだ合意がないと見ているので、慌てる必要はないと思っている。ただ、トイレの洋式化、ドライ化については、進めていく方向だろうと思っている。予算の問題となるので、計画を立てて予算折衝をしていただきたい。

(山下教育長) 最終的には、公共施設マネジメント推進室との協議も必要になってくると思う。単体でトイレだけ順次改修していくとなると経費が掛かるが、今回の岡崎幼稚園の耐震補強と併せてこども園化するのと同じように、耐震補強や改修と併せてトイレの改修を行えば、経費も軽減されるのではないかと。協議をさせていただき、事務局から提案させていただきたいと思う。

(三上市長) 次の総合教育会議は、いつ頃とするか。

(山下教育長) 先ほど申し上げたように、教育施設適正化検討委員会の提言を受けて、教育委員会事務局で原案を作成している。その原案が教育委員会定例会で了承されれば、それを総合教育会議の協議事項にしたい。湖西市として、小・中学校、幼稚園、保育園等の教育施設の今後の方向性について協議しなければいけないと思っている。日程等については、検討させていただきたい。

(三上市長) 10月、11月頃か。12月に退任がはっきりしている市長がその直前にやるのはどうかという意見もあるが、いいのではないか。

(山下教育長) 計画自体はできるだけ早い方がいいと思う。市長が替われば改めて新しい市長と協議することも考えている。

(三上市長) 継続することを一応決めておくが、新しい市長の意向次第ということになる。

(教育次長) よろしければ、以上で平成28年度第2回総合教育会議を閉会する

閉 会 午前11時42分終了